

『光の子どもらしく②』

'23/01/15

聖書箇所: エペソ人への手紙 5章 8-9節 (新約 p.379)



皆さんは、神様の与えてくださる祝福を、どのようなものだとお考えでしょうか？もしも…、神様が、私や皆さんのことを祝福して下さったら、そこには、どのような結果が表われてくると思われませんか？…例えば、経済的に満たされて、贅沢三昧できるようになるでしょうか？あるいは、どんな難病でも癒されて、健康で長生きできるようになるでしょうか？または、様々な問題が解消して、順風満帆にすべての事が運んでいくと思われませんか？そういったような…、神様の祝福について、今日のみことばはどのように教えてくれているのでしょうか？

命題: 光の子どもらしい歩みとは、どのようなものなのでしょう？

前回から、私たちは、エペソ 5:8 以降のみことばを学んでいこうとしています。そこから、救われた者らしい歩みについて…、特に、「光の子どもらしい歩みとは、どのようなものなのか？」ということ学んでいます。まず初めに、今日のみことばをお読みいたします。そこには、このように記されています。

8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。

9 ———光の結ぶ実、あらゆる善意と正義と真実なのです———

どうぞ、まずは、先週に学んだエペソ 5:8 をご覧ください…。『あなたがたは、以前は暗やみでした…』と、みことばは教えます…。聖書のみことばは、かつての私たちが何らかの過ちやちょっとした手違いなどによって、たまたま、暗闇の中に迷い込んでしまったような…、そんな可哀想な存在なのである、とは教えません。それどころか、かつての私たちは皆、光ではなく闇を愛して…、積極的に神様に逆らい、暗闇を個人個人が作り出してしまっていた、と教えます。残念なことに、救われる前の私たちは皆、真の神様を拒み、多くの人たちを更なる悪へと誘い出し、罪の裁きである地獄へと迷わせるような…、そんな罪深く、愚かで、と同時に、憐れな存在であったのです。

しかし、8 節には、続いて…、『今は、主にあって光となりました。』と書かれてあるように、主イエス様を信じ、救われたことによって、私たちは光へと変えられたのです！だから、「私たちクリスチャンは、光の子どもらしく…、つまり、私たちが救ってくださった神様に倣って歩んでいくことができるし、神の栄光を現わしつつ生きていくべきなんですよ！」と、パウロは訴えるのです。

I・そこには、必ず、良い実 が実る！ (8-9 節)

今日は、9 節のみことばを中心に学んで参ります。…私たちが光の子どもらしい歩みをしていく時に、どういったことが起こるのでしょうか？まず、このみことばが教えてくれるのは、そこには、必ず、何らかの良い実が実る！ということです。当然のことながら…、その実は、神様が喜んでくださるものであり、神様の御性質を現わすようなものなのです。そのことを、ご一緒に確認していきましょう。

● 本物の信仰には、必ず何らかの 行ない が伴う！

実は、ここ 9 節のみことばを観察してみますと、日本語の聖書には分かり易くは訳されていないのですが、ギリシャ語の原文には、ここに、「ガル」(γάρα)と発音する接続詞があるのです。この「ガル」という言葉は、英語の For や Because に相当するような言葉で、その前の文章に関する理由や説明をする文章に付けられるものなのです。…とすることは、8 節の説明を、ここ 9 節ですべてしてくれている、というわけなのです！つまり、

8 節で言われているように、私たちが光の子どもらしく歩んでいく時に…、そこに、当然の結果として、実が結んでいくのですよ！という話がなされているのです。

そういった意味において、ここ 9 節は、8 節の続きではなくて…、本当の 8 節の続きは 10 節であると言わなければならない。…そうして、9 節は、8 節の内容をもう少し詳しく説明した「挿入句」なので、今日のみことばでも、そういったことを表わす印(長い横線)が付いているわけなのです…。

どうぞ、皆さん、思い出してみてください。例えば、あのイエス様も、「山上の説教」と呼ばれるメッセージの中で、同じようなことを教えてくださいました。マタイ 7:13-27 をご覧ください。『13 狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。25 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。』

⇒ここは、かなり以前に学んだみことばですが、ここでイエス様は救いに関する警告と言いか、説明をして下さっています。『狭い門から入りなさい。…いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。』って…。実に、多くの者たちが滅びに至る門を通していつてしまっているからです！また、それだけでなく、間違ったことを教えるような、『にせ預言者たち』が居るからです！じゃあ、どうやって、そのにせ預言者たちを見分ければ良いのでしょうか？そこで、イエス様はこう教えてくださいました、『あなたがたは、実によって彼らを見分けることができる』って…。ついさっき読んだ 16 節と 20 節で、イエス様は同じことを繰り返して下さっています。

じゃあ、ここで言われている『実』とは何でしょう？皆さん、何だと思われませんか？⇒それについて、イエス様は 21 節以降で、はっきりと教えてくださいました。それは、『天におられる…父のみこころを行う』かどうか、です。22 節にあるように、どれほど…、多くの預言の言葉を語ったとか…、聖書の知識があるか、なんて、そんなことが救いを保証するものではありません。また、その人の熱心さも、必ずしも、救いを保証するものではありません。悪霊を追い出したとか、奇蹟をたくさん行なった、ということも挙げられていますが、そういった奉仕や奇蹟で、人が救われるのでしょうか？…違いますでしょ！人を救うのは、真の信仰だけです！そして、敢えて言わせてもらうなら、本当の信仰には、必ず、神様に喜ばれる行ないが伴うのです！

だから、イエス様も、ここ 21 節で、『わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入る』と教えてくださいました。ここでイエス様が、救われていない者たちにおっしゃられた、『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わ

たしから離れて行け。』という言葉の、『不法をなす者』という表現は、現在分詞形で語られています。つまり、「不法を…、神様に喜ばれないことを“行ない続けている”者たち」のこです。このような者たちは、神様の前に、自分が犯し続けている罪を悔い改めることが無いのです。つまりは…、これも一種の行ないですよね？…良いですか、皆さん。何度も言いますが、行ないによって、人が救われるものではありません！しかし、イエス様が教えてくださっている本物の信仰には、必ず、何らかの良い行ないが伴うのです！

だから、主の兄弟ヤコブは、そのことを強調して、『行ないのない信仰は、死んでいる…』(ヤコブ 2:26)と教えるわけです。良いでしょうか？皆さん！聖書は、この全体で「完成された、神様からの啓示」です。聖書の言葉や教えは、決して、矛盾しません！矛盾していると思うのは、私たちの理解が足りないからです。よく言われるような…、「救いは、ただ信仰によるのであって、如何なる行ないによるものではない！」というパウロの主張は、“救いの方法”について教えられてあるのであって、ヤコブが主張したことは、“救いの結果”について教えてくれているわけで、そこには何ら矛盾はありません！…と言うか、信仰による救いを主張したパウロだって、たくさんのみことばで、行ないを強調していませんか？…私なら、そのパウロが、ただ信仰のみによって救われた者たちに対して、行ないを要求しているところを幾つも挙げる事ができます。現に、私たちが今、学んでいるみことばだって、そうじゃないですか！…そうでしょ？

その昔、ある方は、こんなことをおっしゃられました…、「信仰が死んでいても良いじゃないですか？それで、その人が救われてさえいれば…」って…。いいえ、行ないが伴わない信仰は、それ自体が偽りであり…、死んでいるが故に、人を救うことがないのです！その信仰は単なる、見せかけだけのものなのです。だから、ヤコブは 2:14 で、『そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。』と言うのですが、当然、その答えは、“NO！”なのです…。

だから、イエス様の先駆者であった、あのバプテスマのヨハネも、大勢のパリサイ人たちが軽い気持ちでバプテスマを受けに来た時に、何と言って、パリサイ人たちのことをいさめました？『7 …まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。 8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。』(マタイ 3:7-8)と言って、パリサイ人たちのことをいさめたでしょ？…それは、彼らパリサイ人たちが本当の悔い改めをせず、ただ…、「形だけのバプテスマ」を受けに来たからです。だから、そんなパリサイ人たちに対して、バプテスマのヨハネは、「まずは、悔い改めよ！そして、悔い改めにふさわしい実を結べ！」と説いたのです…。それだって、行ないでしょ！このように、本物の信仰は、必ず、行ないが伴うのです。

どうぞ、エペソ書 5 章のみことばに戻ってください。少し前に学んだ箇所、エペソ 5:5 をご覧ください。『5 あなたがたがよく見て知っているとおりの、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です、——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。(=救われていない)』…今、お読みしたみことばでは、どういった者たちが、神の御国を相続できないとありました？⇒『不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者…』でしょ！これらだって、その判断の基準は皆、行ないじゃありません？ここで、パウロは言わないのです、「イエス様を信じなかった者は神の御国を相続できません」って…。…でしょ！…それらは両方とも同じことだからです！

また、どうぞ、6 節をご覧ください。『むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。』…ここでも、神の怒りは、どういった者たちに下るとありましたか？⇒ここでも、パウロは「神様を拒んだ者たち、信じなかった人たち…」とは言っていないでしょ？『不従順な子ら…』という言い方をしています…。つまりは、従順か従順でないか…、言い換えれば、それも行ないによるのです。ですから、ここ 6 節には、『こういう行いのゆえに…』とあるのです！つまりは、行ないが、その判断基準なのです！…でしょ？

どうか、もう1つだけ…。皆さんが本当に愛しておられる聖書のみことばで、ローマ 8:28 では、救われたクリスチャンたちのことを、どのように表現してくれています？⇒『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』でしょ。『神のご計画に従って召された…』と言うのは分かりますよね…。救いとは、究極的には、神様の選びによる、ということです。じゃあ、『神を愛する人々…』とは、どういうことなのでしょう？…どういった人が、「神様を愛する人」なのでしょう？これについても、聖書は答えを与えてくれています…。

1 ヨハネ 5:1-3 に何とあるか、皆さんはよくご存知だと思います。『1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。 2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。 3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』…ここでも、はっきりと教えられてあります、『神を愛するとは、神の命令を守ることです。』って…。ここでのテーマは、愛です。もう何度も言っていますように、本物の愛には、必ず何らかの行ないが伴うのです！

ですから、最近、私たちが学んでいる一連のみことばが教えてくれているように、私たちが本物の信仰を持っているならば、私たちは、神様にならって生きていこうとするし…、例え、何度も失敗することがあったとしても…、神様の栄光を反射させながら…、光の子どもとして歩いていくことができるのです。特に、今日の聖書箇所では、光である私たちの結ぶ実…、神様が、救われた私たちを用いて結ばせてくださる実というものが、3つ、挙げられています。今から、その3つの実を見ていきましょう。

①あらゆる 善意！

まず、ここ 9 節で、初めに挙げられてある実は、『善意』です。聖書では、ここに、『あらゆる…』という言葉があるので、『あらゆる善意』と訳されてありますが、恐らく、この、『あらゆる…』という説明は、『善意』だけではなく、『正義と真実』にもかかっていると思われる。

ここで、『善意』と訳されてある言葉(ἀγαθωσύνη)は、「善良、正しさ、(優しい)親切さ」などを意味します。しかし、ここで、みことばが、『あらゆる善意…』と言っているのは、恐らく、エペソ 4:31 で教えられていた、『無慈悲、憤り、怒り、叫び、そりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。』ということと関連があって…、その対極のことを教えようとしているからです。

皆さん、覚えてくださっています？…私たちが、エペソ 4 章の後半で学んだことですが…、私たちが何か悪い習慣を止めようとした時、その悪い行為をしただけでなくて、どんなことが必要でした？…それまでの悪い行為に代わる、それと正反対の良い行動…、悪い習慣と対極にある良い習慣を身に付ける必要がある…、みたいなことを学んだでしょ？…つまり、そういったような悪と言うか…、卑しいことや虚しいことに目を向けるのではなく…、良いものに対して、積極的に目を向けていきなさい！ということなのです。

②(あらゆる) 正義！

次に教えられてある『正義』ですが、この言葉(δικαιοσύνη)は、もちろん、正義や公平などを表わす言葉なのですが、その中でも、特に、「神様を基準とした正義」などを表わす言葉なのです。

ですから、例えば、1 ヨハネ 2:29 には、『もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行う者がみな神から生まれたこともわかるはずです。』と書かれてあるのですが、ここで言われている、『義を行う者』とは、どういった者たちのことでしょうか？⇒実は、ここで言われてある者たちというのは、例えば、真の神様を知らない方たちが、清く正しく生きている…、そういった者たちのことを言っているわけではありません。

ここで言われている『義』とは、聖書の教える神様の基準であって…、いくら、神様を知らない人たちが清く正しく生きておられたとしても、聖書が教える真の神様をあがめたり…、その神様を賛美したり…、その神様のお言葉であるみことばを学んで、実践したりすることが無いが故に、神様を知らない人は決して到達できない基準のことなのであって…、みことばが教えるのは、それができるのは、本当に救われた者だけ、ということなのです。

③(あらゆる) 真実 !

どうぞ、最後の『真実』という言葉(ἀλήθεια)に注目してください。この言葉は、真実以外には、「本当(のこと)、真相、ありのまま、真理、誠実」などというように訳されます。例えば、有名なのは、あのイエス様が、ヨハネ 14:6 で、『わたしは道であり、“真理”であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』と言われた…、あの言葉なのです。

イエス様が、真理であるが故に、私たちも真理を追究していくべきです。だから、イエス様も、マタイ 5:16 で、『このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』と教えてくださったように、私たちクリスチャンを通して…、人々が、真の神様を…、また、その神様の基準というものが如何に高いものであるか、ということを知っていくようになることを、天の神様は期待しておられるのです。

でも、神様が、私たちクリスチャンを通して結んでくださる実は、これら3つだけなのでしょうか？⇒明らかに違いますよね。間違いなく、これら3つだけではありません！これらはあくまでも、代表的なものであって、もっと多くの実を、神様は結んでくださるのです…。

例えば、1番最初に見た、『善意』という言葉ですが、この言葉は、あの有名な、ガラテヤ 5:22 にも使われています。ガラテヤ 5:22-23、『22 …御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。』…今お読みした部分に、『善意』という言葉がありましたでしょ。つまり、そういったことこそが、聖霊のなしてくださる働きなのです。神様は、私たちの内に、こういったような愛や喜び…、平安、寛容や親切などの実を結んでくださるのです。恐らく、ここで、『御霊の実は…』という表現で、単数形が使われているのは、こういったすべてのものが、クリスチャンたちの、たった1つしかない心の中全体に、湧き上がってくるからではないでしょうか？そういったことこそが、神様の御働きであり、神様からの祝福なのです。

実は今回、新約聖書全体を通して、『実』という言葉(καρπός)が、どういう風に使われているのか、簡単にではありますが…、調べてみました。すると、この言葉が60回使われている、ほとんどすべての場合において、その者の行ないや生き方、あるいは、霊的な性質や思いとして、表現されておりました。時々、教会の成長という観点において、信者が「神様の結んでくださる実」であると言われる場合がありますが…、例えば、I コリント 9:1 では、コリント教会のメンバーを指して、『…あなたがたは、主において私の働きの実ではありませんか。』とあったのですが、実は、ここの個所には、先程の、『実』というギリシヤ語は使われてありませんでした…(意訳)。

つまり、この聖書のみことばが教えてくれている、神様の結んでくださる実は…、初めに言ったような、例えば、経済的に満たされて贅沢三昧できるようになるとか…、あるいは、どんな難病でも癒されて健康で長生きできるようになるとか、あるいは、様々な問題が解消して順風満帆に事が運んでいくというようなことなどではなく、むしろ、様々な問題の中にあっても…、私たちが、神様の喜んでくださるような、ご性質

を实らせていくようなことなのです！…例えば、どのように神の愛を実践できるとか…、あるいは、どんな時でも喜びを持ち続けることができるとか…、どんな環境に居ても平安でいられるとか、どんな相手であっても寛容に、また、親切に接することができる…、自分に悪事を働いた人を赦すことができる、というような…、その人自身の霊性におけることなのです。

良いですか？天の神様は、クリスチャンである皆さんに対して、『光の子どもらしく歩みなさい』と教えてくださっています。そうする時に、その結果というか、その祝福は、何よりもまず皆さん自身に対して…、もっと言えば、皆さんの“心に”与えられるのです！例えば、皆さんは、今、喜んでおられます？喜びで満たされていらっしゃるでしょうか？…恐らく、それは罪を犯したり…、自分の欲望が満たされたりすることから来るような、喜びではないですよ？じゃあ、そういった喜びは、どこから来ているのでしょうか？

神様からなのです！皆さんが益々、神様を知っていくことによることから来る喜び…、神様から自分の間違いや弱さを正しく指摘されたり…、神様の助けをいただきながら、成長させていただけることや、神様の偉大な御力によって守られて、神様の偉大な御計画の一部に用いていただけることなど…、私たちに、たくさん感謝できることがあるじゃないですか！

実際、この書を書いたパウロがそうでした。…彼ほど敬虔で、神様に忠実で、また、神様に用いられた人物はそういなかったでしょう…。しかし、彼の人生と言うか、神様との歩みは、決して、平坦なものではなかったでしょ？パウロは、信仰を持った後、たくさん物を失い、困難に次ぐ困難、迫害に次ぐ迫害がパウロを襲いました。1度、彼は、その迫害のゆえに死んでしまったほどです。…しかも、驚くべきことに、パウロには癒しの賜物があっても関わらず、彼は、自分自身の『肉体のとげ』(II コリント 12:7)を癒すことはできなかったのです。何故なら、その病が癒されることが神様のみことばではなかったからです。

そのことについて、II コリント 12:7-10のみことばは、こう教えます。『7 また、その啓示があまりにも素晴らしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンのはたらきです。8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおつために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。』

⇒具体的に、パウロがどのような病を抱えていたのかは定かではありません…。パウロの目が悪かったことは確かでしょうが…、ここ II コリント 12 章で言っていることが、その視力のことなのか、あるいは、てんかんのようなものなのか、といろいろ言われています。しかし、いずれにしても、パウロにとっては、その病が癒されないことの方が最善だったのです。…そういったことを理解できたパウロは、侮辱される時にも…、苦痛を伴う時にも、あるいは、迫害や困難の中にあっても、常に、神様の最善を感謝していたのではないのでしょうか？

信仰ゆえの迫害や困難に関して、聖書のみことばは、こう教えてくれています。例えば、II テモテ 3:12、『確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。』…また、イエス様も、マタイ 5:10-12 で、『10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。11 わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。12 喜びなさい。喜びおどりなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。』ということを教えてくださいました。このように、

義のために迫害されるということは、その人が救われているということの、1つの証しなのです。そして、実際に、あのイエス様ご自身だって、誰よりも多くの困難や迫害を経験されたじゃないですか！

また、富に関しては、こうあります。1 テモテ 6:9-10、『9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなど、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲にと陥ります。10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常に苦痛をもって自分を刺し通しました。』⇒明らかに、みことばは、金銭を追い求めることに警告を発しています。

また、ローマ 5:1-5 のみことばは、平和や平安についてこう教えます。『1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでます。3 そればかりではなく、患難さえも喜んでます。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。』⇒このように、明らかに、聖書のみことばが教えてくれていることは、経済的に恵まれることが、すなわち、神様からの祝福とは限らない！ということですよ。同様に、病や様々な困難な問題に関しても、同じことが言えるのではないのでしょうか？

現代の…、こういった傾向は日本だけではないと思いますが、キリスト教会が陥ってしまった過ちの1つは、神様からの祝福を、何か…、物理的なものと考えてしまったことにあるのではないのでしょうか？つまり、神様が祝福してくださるということは、必ず、教会の人数が増えることであるとか、多くのプログラムや働きがあることが、すなわち、教会の成熟度や、教会に対する神様の祝福を計る物差しになってしまっているのです。だから、多くの教会は、如何にして、教会員を獲得するか…、どうすれば、多くの人が「信じます」と告白してくれるか、ということを考えて過ぎてしまって…、本来、救いとは神様の御業であるにも関わらず…、私たち人間の側で、救いのハードルを下げてしまっているのかも知れません…。

もし、信者の人数が増えることが、すなわち、神様の祝福なら、この世の中の新興宗教を見てみてください。オウム真理教や旧・統一教会などといったような、おかしな教えが、ごく短期間に多くの信者を獲得したじゃないですか！ 私たちと同じ、キリスト教と呼ばれるグループの中でも、人数、イコール、神様の祝福なら、恐らくは、ローマ・カトリック教会が最大派閥ではないのでしょうか？でも、人数が多いからって、必ずしも、真理じゃないでしょ！ 皆さん？

<励ましの言葉>

皆さん、ご存知ですか？時々、教会の年度方針などで、「私たちは、100 人教会を目指します！1000 人の教会を目標とします！」というのは、正しい目標でしょうか？…だって、人を救ってくださるのは、神様でしょ？それに、いくら教会員が、100 人居ようと、1000 人居ようと、その人たちが本当に救われているかどうかです。ましてや、「今年度は、信者を～人増やそう！目標～人！」というのは、明らかに行き過ぎているように思います。…と言いますのも、天の神様は、私たちが、教会の人数を気に掛けて、人が救われることではなくて、ただ単に、教会員の数が増やされることを喜ばれるのでしょうか？

皆さん、どうか、勘違いしないでください。私は、何も、教会員の数が増やされるのが良くない、と言っているわけではありません。教会を通して、救われる人が起こされるのは、素晴らしい神様の祝福であり、大変喜ばしいことだと思っています。…私が問題に感じているのは、教会が神様を信頼するのではなく、その人数に信頼を置いてしまったり、あるいは、その人数が多いことを誇ってしまうことに問題意識を感じているのです。

もう今日は、時間の関係もあって、聖書のみことばを開けることはしませんが、Ⅱサムエル記 24 章やⅠ歴代誌 21 章に記されてあるような…、かつて、ダビデ王様が人口調査をした時、神様は喜ばれました？⇒いいえ、神様は、その人口調査を喜ばれませんでした。いえ！それどころか、そのせいで、ダビデと言うかイスラエル全体は、神様から大きな災いを下されたでしょ！…と言いますのは、ダビデが神様を頼ろうとしたのではなく、人数が多いことで、そういった人数に信頼し、その人数を誇ろうとしたからじゃありません？…ダビデ自身の功績でも無いのに…。

そういったこともあって、私は、教会の人数が増えることよりも(≡神の御業)、救われた個人個人が、神様の前に霊的に成長させられていくこと…、神様が喜んでくださるような御霊の実を結んでいくことの方が、神様が喜んでくださるように思うのですが、皆さんはいかがでしょう？

私たち1人1人が、しっかりとみことばを学び、確信を持って、神様の前に成熟していくこと…、感謝をもって…、また、誇りをもって、毎日毎日歩んでいけることこそが、まず、神様の与えてくださる祝福なのではないでしょうか？神様が、救われた私たちに問われるのは、果たして、私たちが何人を救いに導いたかではなくて…、私たちが神様に対して、あるいは、神様のみことばに対して、忠実であったかどうか、ということなのではないでしょうか！

皆さん、もうかなり前…、私たちがエペソ書を学び始めた頃に学んだことですが…、エペソ 1:3 に何とあったか覚えてくださっています？⇒『私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。』…今、お読みしたみことばで、神様の祝福とは、どういったものであると教えられていました？…富でした？…あるいは、癒しや健康でしたか？あるいは、目先の問題が解決することだったのでしょうか？⇒違いましたでしょ！

神様の祝福は、まず、他のどこでもない、あなたに対して…、あなたの心に与えられるのです！どうか…、目先のものに心を奪われないでください！富や健康は確かに、素晴らしいものかも知れませんが、しかし、どれほどの莫大な富や財宝があったとしても、それが形ある以上…、盗人が来たら、盗まれてしまうし…、錆びついたり…、燃えてしまうことだって有り得ます…。健康にしたって、そうです。いくら私たちが健康になったとしても、いつか必ず、老いが来て、この地上での生涯を終えて…、神様の用意してくださっている次のいのちをいただく時が来るのです。

私たち人間は、もともと、貪欲な存在です。どれほどの財宝があっても満足しません。いくら満たされていようと、いくら健康であっても、「じゃあ、今度はこれ！次はあれ！」と言って、次から次へと、欲求のタネは尽きません…。そうじゃありません？そういったものが有っても無くても…、神様は、私や皆さんにとって最善のことをなす続けてくださるのです。神様の祝福があるか否か…、それは、私や皆さんの選択にかかっているのです。

どうぞ、ここにおられる皆さんが、益々、正しい基準をもって…、毎日毎日歩んでいってくださって、ますますの喜びや感謝、また、誇りをもって、クリスチャン生活を歩んでいってくださることを期待いたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。